

# 第3回薬薬連携の会

## 第2部 意見交換会議事録

日 時：平成31年3月6日（水）20：00-20：45

場 所：多摩南部地域病院 第2会議室

### 1. 患者情報の共有について

これまで、薬薬連携の会において、アレルギー歴等、患者情報を共有するツールについて話し合ってきた。これにより、①手帳が変わったときも情報が引き継げる、②フォームの統一化により、記載箇所が特定できる等の利点がある。

- ツール作成上の問題点として、コストと作業が挙げられる。
- 手帳のカバーにはさむ、シールを貼るなどの意見が出たが、費用の問題があった。
- **A5の紙で作成して、輪ゴムでつけるのが実際的ではないか。**
- 輪ゴムと紙なら予算がかからず、作成できる。
- 薬局と病院、お互いの欲しい情報を精査して、フォーマットを決めるのは難しいことではなく、すぐにできることだと思う。
- 内容を聞き取るときに、患者さんになぜかと思われぬように、うまく声掛けをするきっかけになればよい。
- **薬剤師会と連携して、案を作成、フォーマットをHP上で公開するなど、共有して使用していく方向で検討していく。**

#### (問題点)

- ・ 輪ゴムではアレルギーの心配がある
- ・ 患者が携帯するということは、プライバシー、個人情報の問題があるため、患者が拒否した場合の対応を考える必要がある。
- ・ お薬手帳の扱いも患者さん次第、自分でカバーを作っている方もいる。輪ゴムも良いが、会話、声掛けがすごく大事だと思う
- ・ 前立腺肥大の薬によって、白内障のOPEの効果に影響があったケースもある
- ・ 情報が多くなると劣化していく
  - 表紙にシールを貼って交換する時に表紙を切り取って新しいものにホチキス止めする等、対応が必要ではないか。
  - 劣化したら、再度コピーして綺麗にして挟んで対処する。
- ・ しおりの形で最新のページに挟むのもいいのではないか

#### (フォーマットについて)

- ・ アレルギー、副作用歴が禁忌なのか、慎重投与なのか、詳細がわかるようなもの

平成31年2月1日

第3回

# 薬薬連携の会

第1部 多摩南部地域病院 病院長講演

## 漢方とは

日本東洋医学会漢方専門医・参事  
日本脳神経外科漢方医学会評議員  
日本臨床漢方医学会副理事長

多摩南部地域病院 病院長 和智 明彦 先生

第2部 意見交換会

記

日時 平成31年3月6日(水) 19:15 ~ 20:30  
場所 多摩南部地域病院 第2会議室  
(TEL.042-338-5111)

~~~~~  
当日の流れ

- 19:15- 開会のご挨拶(多摩市薬剤師会長 小坂 一郎先生)
- 19:20- 第1部 講演会
- 19:50- 第2部 意見交換会
- 20:30- 閉会のご挨拶(多摩南部地域病院 松本薬剤科長)

問い合わせ先: 多摩南部地域病院 畠山  
[taku\\_hatakeyama@tokyo-hmt.jp](mailto:taku_hatakeyama@tokyo-hmt.jp)

# 前回の意見交換会より・・・

## 1. 薬局における在宅について

- ・退院時の具体的な調剤情報(調剤方法が変更になった経緯、輸液調製の情報など)が変更がほしい。  
→ ハードの問題、マンパワーの問題があり対応できていない。
- ・退院時カンファレンスに病院薬剤師が参加してほしい。  
→ 薬局薬剤師が参加するときは地域連携室から連絡が来ることになった。

## 2. 生保の後発医薬品の使用原則化について

- ・医学的に先発が必要かどうかは常に薬剤師の判断でよい。
- ・先発がよいのではと思ったら医師に疑義照会、そうでなければ福祉事務所に直接連絡する。
- ・夜間疑義照会や福祉事務所に連絡も出来ない場合は先発で調剤後に事後での福祉事務所に連絡する。

## 3. 腎機能等、検査値を処方箋に印字することについて

- ・腎機能以外の主要な検査値を開示できるように病院に働きかけていく。  
→ 導入の際には勉強会も企画が必要となる。

## 3. 患者情報の共有について

- ・お薬手帳カバーにシールを貼る案、お薬手帳に患者情報の見開きページを挟む案がある。  
→前者は、患者がカバーを使用していないので、難しい。後者は患者が無くさない方策を考えれば役立つ情報である。  
→ 使い捨てのポケット+患者情報にするのは、どうか。  
→ サイズが小さいお薬手帳、電子お薬手帳両方に対しての対策が必要である。